

画像の加工に 挑戦!

ハードディスクの中で眠っていませんか?

デジタルカメラの普及で、一般の方でも、違う種類のデジタルカメラを複数台所有されているという方も増えてきているのではないのでしょうか。撮った写真をパソコンに保存して見たり、最近ではテレビで見ることも可能になってきています。また、撮った写真を年賀状に使用される方も多いのではないのでしょうか?せっかく撮った写真ですのでハードディスクに眠らせておくのではなく、撮った後も楽しませませんか?

あなたはJPEG派?それともRAW派?

撮影した写真の保存形式には、代表的なものとしてJPEG形式、RAW形式の2つが挙げられます。ほとんどのデジカメは撮影した画像をJPEG形式で保存しますが、一眼レフデジカメや最近のコンパクトデジカメでは、RAW形式での保存にも対応しています。なぜ、最近になってRAW形式に対応するデジカメが増えてきたのでしょうか?それはにはそれなりの理由があるのです。

JPEGは、撮影した画像の情報を圧縮して保存します。一方RAWは、画像の情報を圧縮せずに保存します。RAWデータは無圧縮なので当然ファイルサイズが大きく、撮影枚数の制限や、PCでの加工処理に時間がかかるなどの問題もありましたが、最近では記録メディアの価格低下や、PCの処理性能が上っているため、それほどストレスを感じないようになってきました。**保存時に圧縮を繰り返すJPEGデータ**に比べ、**無圧縮のRAWデータは、「加工に強い」ファイル形式**なのです。

	メリット	デメリット
JPEG	ファイルサイズが小さい 表示ソフトを選ばない	加工すると画質が低下する
RAW	加工の自由度が高い	ファイルサイズが大きい 専用ソフトが必要

手軽なJPEG、加工向きのRAW

加工するならRAWで撮ろう!情報量が違います!

ファイルサイズが大きく、取扱いに専用ソフトが必要なRAWデータは、一見不便のように見えますが、「**画像の加工**」という点においては、JPEGより優れていることは確かです。デジカメで撮影された画像は、カメラ内で撮影データの多くを削除して圧縮されます。その結果データの情報量に大きな差ができます。RAWデータは、加工後はJPEGデータに変換もできますので、**カメラ任せの画像に満足できない方は、RAWデータに挑戦してみませんか?**



JPEGとRAWの情報量(階調)の違い

加工の基本は「明るさ」「色相」そして「慣れ」

「**画像の加工**」と聞いて、尻込みしたり、面倒だ!と言う方もいるかもしれませんが、基本は「**明るさ**」と「**色相**」です。暗い画像を明るく、明る過ぎる画像を少し暗くしたり、青空をもっと青く、夕日をもっと赤くとか、肌の色をもっとキレイに…。あまり深く考えずに、ソフトの使い方に慣れてしまえば簡単にできることです。下の画像のように、少し暗い画像も、チョッと加工すれば、空も青く、紅葉も鮮やかになります。



JPEGデータでもRAWデータでも、画像ソフトで「明るさ」「色相」などを変更することはできます。しかし、**情報量の少ないJPEGデータより情報量の多いRAWデータの方が、変更の自由度が拡がります。**JPEGに圧縮されるときに削除されたデータは、どれだけ高機能の画像ソフトでも元に戻すことはできません。例えば、太陽の光が当たった白い壁。デジカメのセンサーが取り込んだ情報に、壁の傷や凹凸など細かい情報があっても、JPEGに圧縮されるときにはその細かい情報は削除され、ノッペリとした白一色で保存されてしまいます。

「大きく引き伸ばさないと解からないよ」と思っている方はいませんか?これが結構、写真全体の質感を左右するのです。微妙な色や明るさの変化は、写真の出来に大きく変化を与えるのです。

これまで、撮った写真に満足できなかった方は、是非一度、画像の加工に挑戦してみてください。撮りっぱなしになっていた、「ハードディスクの肥やし」が、パネルに入れて飾りたい写真になるかも知れませんよ。



実は、**プロの写真家でも画像ソフトを使って加工します。**どれだけカメラの性能が良くなっても、「人間の目」にはかきません。『**撮影した時の「色」に近づけるため**』『**より感動を与える画像にするため**』プロの世界でも画像の加工は当たり前になっているのです。試行錯誤を繰り返し、人々に感動を与える作品を作り出しているのです。「**Photoshop**」や「**SILKYPIX**」などが有名なソフトです。



微妙な質感が全体に大きな影響を与えます。

JPEGデータとRAWデータ

画像データにはビットマップ(BMP)、ジフ(GIF)、JPEGなど、様々なファイル形式がありますが、多くのデジカメで利用されているのが、JPEGとRAWです。しかし、**一口にRAWデータと言っても、実はカメラメーカーによってフォーマットが違います。**デジカメを買えば、画像ソフトがついてきますが、メーカーの違うRAWデータが開かない、と言うことがあります。市販の画像ソフトでは、各メーカーのRAWデータに対応するようにプラグインが用意されています。

RAWデータとは、デジタルカメラがセンサーで受けた光の情報の「生データ」のことです。何も足されず、何も引かれていない情報です。よく料理に例えられるのですが、**JPEGが「調理済みの料理」、RAWは「料理の素材」**と言われます。デジカメのJPEG画像は、カメラメーカーが調理、味付けを行います。一方RAWデータは、「**素材を用意しますから調理と味付けはお好きにどうぞ**」と言った感じです。どんなに新鮮で高価な素材を用意してもらっても、おいしい料理ができるかどうかはユーザーの腕次第です。でも、最近ではいろんな画像ソフトがありますので、それらを駆使して、おいしく調理したいものです。

左で紹介したプロでも使用する画像ソフトですが、高価なソフトでなくても、かなり高機能なソフトもあります。**フリーソフトの「GIMP」(ギンプ)**もそのひとつです。Photoshop顔負けの高機能なのに無料で使用できます。有名なソフトですので、インターネットには使い方や、プラグインソフトがいっぱいあります。もちろん日本語で使えます。最近では使用方法の書籍も出版されていますので、マニュアル代わりにもなります。興味のある方は、「GIMP」で検索してみてください。(公式HP:<http://www.gimp.org/>)



画像ソフトを使ってデジカメ写真を「作品」に仕上げて見ませんか?

■年末年始休業期間のご案内■

平成21年12月29日(火)～平成22年1月4日(月)

上記の期間は年末年始休業とさせていただきます。

尚、12/29(火)～1/4(月)の間のお問合せ、製品注文メール

への対応は1/5(火)以降になります。

ご迷惑をおかけ致しますが何卒ご了承下さい。

開発室から

先日4年ぶりにプリンタを購入しました。旧機種と同じメーカーですがインカートリッジの互換性がありません。旧機種のインクが何本も残っているので、しばらく旧機種も併用するつもりです。まだ使えるのにどうしてプリンタを買ったの?旧機種はCDレーベルの印刷機能が壊れただけで、通常の印刷には何の支障も無いのです。多機能になると、こんなもったいないことも起きるのですね。

